



あと一步の向上に向けた取組

函館市立金堀小学校

生活習慣・学習習慣の形成 基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用 望ましい学習態度の育成 学校組織・指導体制の改善

1 学力向上の具体的な方策

- ① 学力の実態把握と特別委員会等の活性化
- ② T T等による指導体制の組織的な対応と個に応じた授業の充実
- ③ 授業以外の学習の工夫と家庭との連携の強化

2 取組の概要

- ① について
 - ・ 校内学力向上委員会を設置し、全国学力調査や学力検査などの学習評価や分析を行い、実態と課題について全体で共通理解を図った。
 - ・ 学級交流会や校内特別支援委員会を定期的に関き、学級や児童の実態について共通認識を確認するとともに、対応について意見交流を行った。
 - ・ 校内研究において「言語活動」や「学び合い」についての研修を深め、わかりやすい授業の改善に努めた。
- ② について
 - ・ 全校で統一した「学習の約束（学習常規）」を作り、どの学級でも共通して指導にあたるように取り組んだ。
 - ・ 算数 T Tによるグループ別指導や習熟の程度に応じた指導を工夫し、学力定着が不十分な児童への個別の補充授業を通して、個に応じた指導を行った。
 - ・ 特別支援を必要とする児童に対して、空き時間の教師を中心に全校組織でのサポート体制を組んで対応した。
- ③ について
 - ・ 欠席児童や未定着児童に対して、休み時間や放課後に補習を行い、習熟できるように担任以外にも協力していた。
 - ・ 長期休業中に全学年を対象とした学習会を実施し、児童の学習意欲の喚起と理解の定着を図った。（夏4日間のべ270名、冬3日間のべ290名が参加）
 - ・ 「家庭学習の手引き」や「学年別おすすめメニュー」などを配付して、家庭の協力も得られるように工夫して取り組んだ。

3 成果（○）と課題（●）

- 全職員が児童の実態を把握するように努め、協力して指導にあたってきたことによって、学習意欲や理解の向上に結びついていた。
- 個別の学力状況に着目し、一人一人の子どもに応じた教育をすすめ、さらに理解と協力が広がるように家庭との連携を密にして指導にあたる。